

## “プロ野球ニュース”よ 永遠に

札幌市医師会  
札幌東クリニック

江端 真一

スポーツ観戦が趣味であり、とりわけプロ野球観戦が好きである。メジャー・リーグにはそれほど興味はなく、あくまでも日本プロ野球である（大谷選手のことは気にはなりますが…）。現在こそ、北海道に日本ハムファイターズが当たり前のように存在しているが、私の幼少時に、北海道にプロ野球球団が来るなど夢物語であった。“北海道にプロ野球球団を作る会”みたいな組織があったが、できるわけがないでしょ、と誰もが思っていた。

小学生当時、テレビで観戦できるのはほぼ巨人戦に限られており、周りにもセ・リーグ球団のファンしかいなかった。しかし、どういうわけか私はパ・リーグファンであり、年に数回円山球場に来る試合を、一人で見に行ったものである。野球帽も、南海、近鉄、西武などパ・リーグのものをかぶっていた。新庄選手が日本ハムに入団した時、“メジャー・リーグでもセ・リーグでもなく、これからはパ・リーグの時代です”というようなことを言っていたが、私にとってみれば、40年以上前からパ・リーグの時代であった。

パ・リーグの選手をテレビで見られるのは、オールスターゲームか日本シリーズくらいだったが、そんな私の欲求を満たしてくれたのが、“プロ野球ニュース”であった。佐々木信也の司会と、みのもんたの“好プレー・珍プレー”でおなじみの情報番組である。セ・パの全試合を、必ず映像付きで解説してくれるため、貴重なパ・リーグの情報源であった。日生球場、川崎球場、大阪球場、西宮球場…。実に郷愁のある、当時のパ・リーグの本拠地球場が懐かしい。その“プロ野球ニュース”であるが、現在もCSチャンネルで存続している。プロ野球の試合が一試合でもあれば、午後11時から生放送される。当時の原則が守られており、全試合詳細かつ公平に解説される。また、西武球場をバックにしたタイトルテロップの“今日のホームラン”も、当時のままである。仕事が終わって、自宅に帰って一息ついたら、今“プロ野球ニュース”を見るのが、今の私のささやかな楽しみとなっている。

ちなみに、幼少時は近鉄ファン、そして現在はもちろん日本ハムの大ファンである。

## 「ほぼ歩き遍路」のすすめ

札幌市医師会  
北海道立子ども総合医療・療育センター  
札幌マタニティ・ウィメンズホスピタル

倉橋 克典

四国遍路は自由な旅で、「歩き遍路」でも「自転車遍路」でもよいし、レンタカーや団体バスツアーを使ってもよい。全行程約1,300kmを40日かけて「通し打ち」しても、少しずつ「区切り打ち」しても、阿波、土佐、伊予、讃岐を「一国打ち」してもよい。徳島から時計回りに「順打ち」しても、3倍のご利益をねらって「逆打ち」してもよい。

有給休暇の消化のため思いがけず与えられた一週間の休み、1番霊山寺から「歩き遍路」をスタートした。救いを求めていたわけでも自分探しをしたかったわけでもなく、ただ面白そうだったから。白衣、菅笠、金剛杖の遍路スタイルは本格的だが、心の自由を奪われる気がしてお経は唱えず、かわりに家族の健康を願うことにした。

「道しるべ」と地図を頼りに歩いたが、ルートを外れていれば、住民が声をかけてくれた。冷たいお茶にミカンやお菓子など、どこでも親切な「お接待」を受けた。水田の広がる徳島の遍路道は、小学生の集団登校が終わるととても静かで、田植え作業の傍らでオタマジャクシの群れを好きなだけ観察した。11番藤井寺に向かう広大な河川敷の夕日に、道草して帰った幼少期を思い出した。12番焼山寺への道のりは「遍路ころがし」と呼ばれる登山道で、ふらふらになって下りついた神山町は、旧町民を模したかわいい案山子（かかし）の集落であった。勝浦町坂本では、廃校になった小学校に宿泊し、町民が作った「そば米汁」を頂きながら過疎地の生活を思った。すっかり遍路のとりこになり、休暇を使って四国を訪れるようになった。

旅の相棒ができてからは、行き当たりばったりの旅はやめて、観光要素を取り入れた。道後温泉や金刀比羅宮、桂浜や栗林公園などの名所に寄り道し、皿鉢料理の夕食や護摩祈祷の体験ができる宿坊を事前に予約した。スケジュールの遅れは、電車やバスで取り戻す「ほぼ歩き遍路」とした。

松山、宇和島の「鯛めし」は甲乙つけがたくおいしく、「ひと味違うから」と毎夕食に出された「鱈のたたき」に高知県人の強いこだわりを知った。24番最御崎寺（室戸岬）、38番金剛福寺（足摺岬）への長い道のりは海側ばかり日に焼けて痛かった。ひとりで歩いた徳島も相棒ともう一度歩き、8年かけて88番大窪寺で「結願」した。

遍路を終えて悟るものはなかったが、御朱印をあつめた納経帳は最高の思い出の品になり、四国の人と自然を身近で大切に思うようになった。